

(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画書	
令和 6 年 6 月 19 日	
茨城県知事 大井川 和彦 殿	
提出者 住 所 茨城県神栖市東和田 3 番地 氏 名 鹿島電解 (株) 鹿島工場 取締役工場長 星田 繁宏 電話番号 0299-96-2311	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 12 条の 2 第 10 項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	鹿島電解 (株) 鹿島工場
事業場の所在地	茨城県神栖市東和田 3 番地
計画期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	製造業 (化学工業) E-16
②事業の規模	食塩を原料として、イオン交換膜法電気分解により、主製品としてか性ソーダ及び塩素、副製品として水素を製造している (資本金35億円)。令和5年度実績: 製品出荷額 約175.6億円/年 (か性ソーダ約386,380 t/年、塩素約343,590 t/年、水素約103,222千Nm <sup>3</sup> /年)
③従業員数	46名
④特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	図-1、図-2 参照



## (第2面)

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図) 図-3 参照			
特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（令和 5年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	汚泥	低濃度PCB
	排 出 量	87 t	1.1 t
	(これまでに実施した取組) 別紙の通り		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	汚泥	
	排 出 量	150 t	
	(今後実施する予定の取組) 別紙の通り		
特別管理産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 別紙の通り		
②計画	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 別紙の通り		

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（令和      年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 特別管理産業廃棄物の量	t	t
	特に実施していない。		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 特別管理産業廃棄物の量	t	t
	実施予定なし。		
自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（令和      年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った 特別管理産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 特別管理産業廃棄物の量	t	t
	特に実施していない。		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う 特別管理産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する 特別管理産業廃棄物の量	t	t
	実施予定なし。		

## (第4面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項			
① 現状	【前年度（令和      年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分を行った特別管理産業廃棄物の量	t	t
	特に実施していない。		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	t	t
	実施予定なし。		
特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和    5年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	汚泥	低濃度PCB
	全処理委託量	88 t	1.1 t
	優良認定処理業者への処理委託量	88 t	t
	再生利用業者への処理委託量	87 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) 別紙の通り		

②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	汚泥	低濃度PCB
	全処理委託量	150 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	150 t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 別紙の通り		
※事務処理欄			

図 1 特別管理産業廃棄物の発生から一連の工程

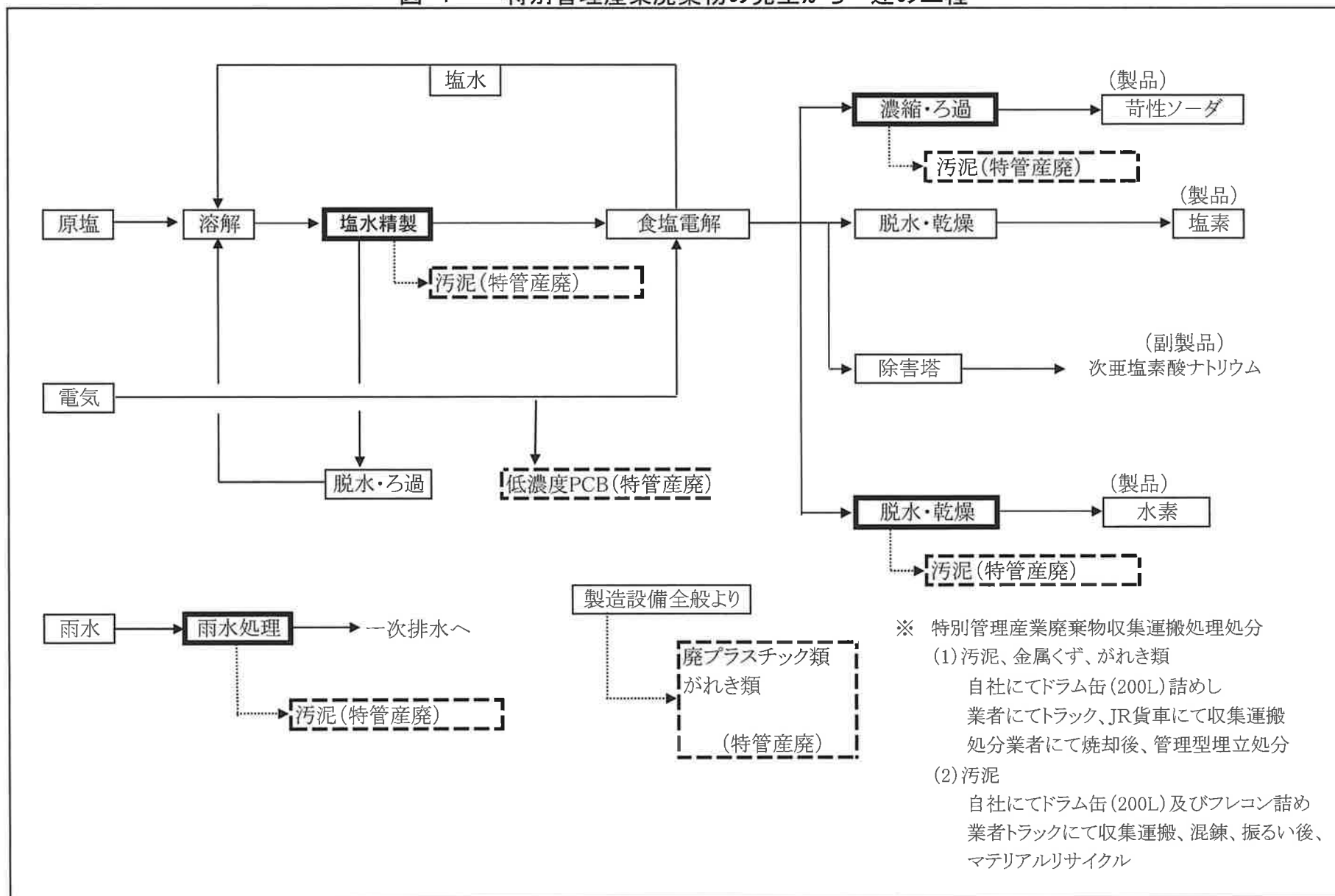
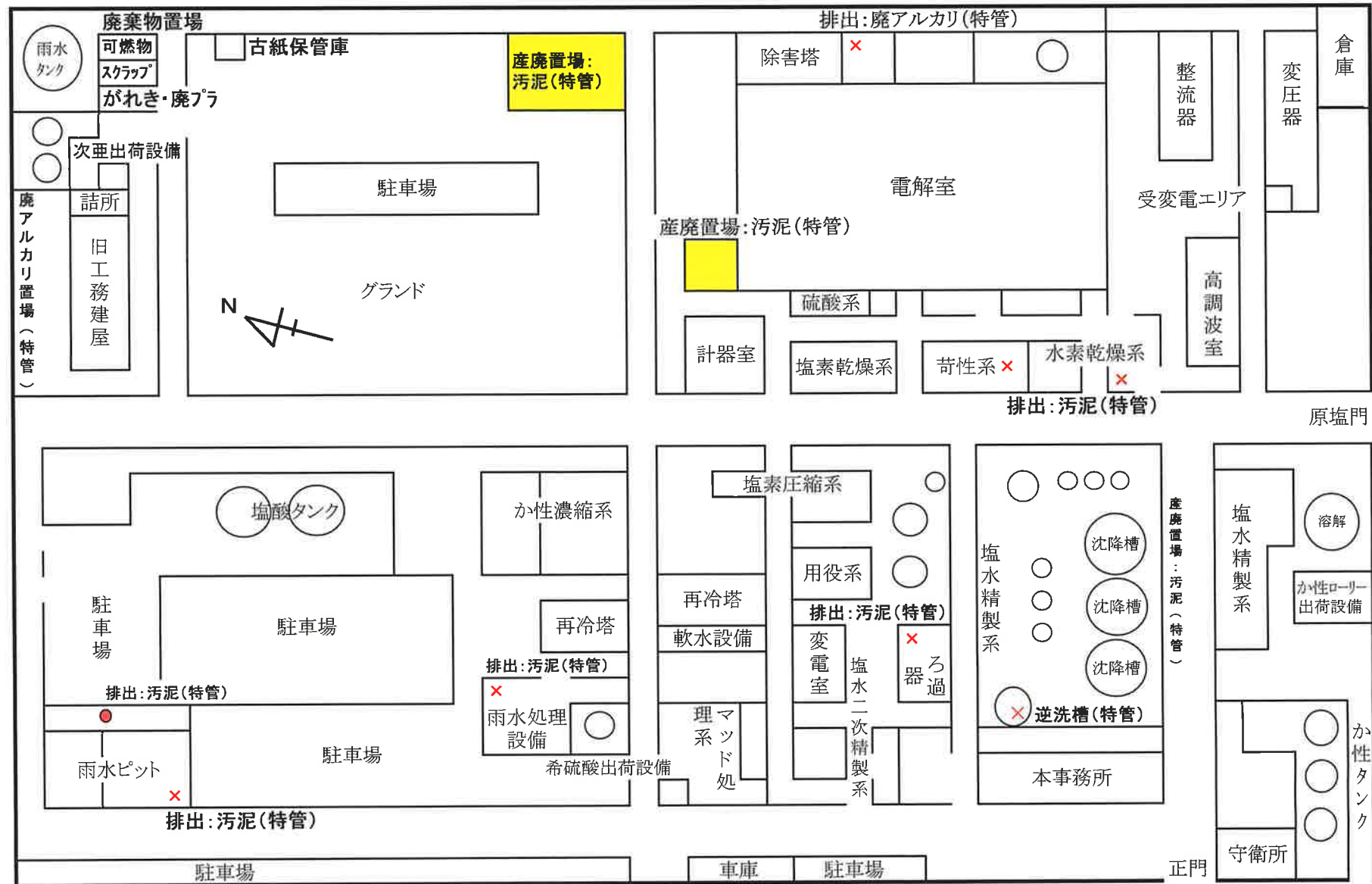


図2 特別管理産業廃棄物発生場所及び保管

令和6年5月8日



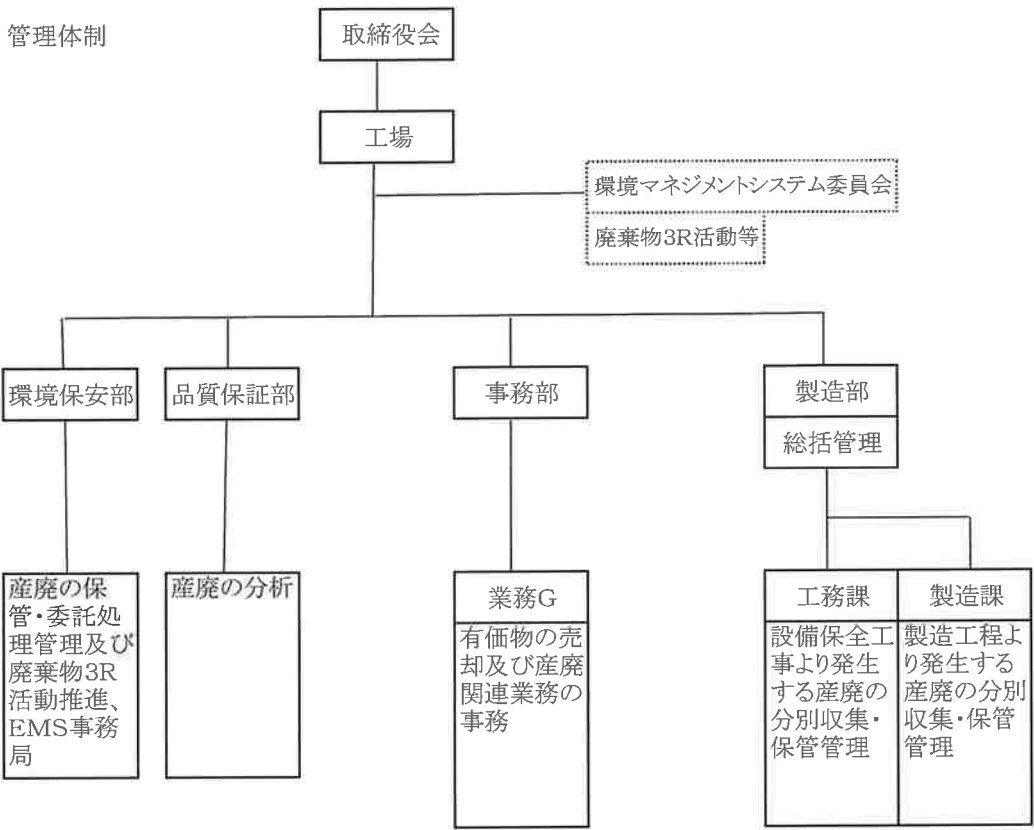
凡例: 特管廃棄物置場、● × 排出場所

令和 6年度 特別管理産業廃棄物処理計画

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

1) 管理体制図

(1) 管理体制



【注】G:グループ

- (2) 産業廃棄物管理責任者：環境保安部 部長
- (3) 産業廃棄物処理施設技術管理者：製造課 グループリーダー
- (4) 特別管理産業廃棄物管理責任者：環境保安部 部長
- (5) 連絡先

担当者 鹿島電解(株)鹿島工場 環境保安部  
電話 0299-96-2313

以上



## 令和 6年度 特別管理産業廃棄物処理計画

## 1. 特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

## 1) 特別管理産業廃棄物排出抑制の現状と計画

- (1) 当社の特管産廃の発生場所は限定される。作業に関係する課員に収集・保管方法を周知徹底して、適切な管理を行っている。
- (2) 当社で発生する特管産廃は、特定有害産廃の汚泥があり、発生場所は、塩水精製工程、製品精製工程及び排水処理工程に分かれる。
- (3) 汚泥発生場所の両精製工程では、それぞれ塩水及び製品中の異物を除去して精製するためのろ過又は吸着過程で、ろ材・吸着材に有害物質が蓄積されて判定基準を超えるようになるため、これらのろ材・吸着材を交換する際に特管産廃の汚泥として処理している。これらの汚泥は、量的に徐々に排出が減少している傾向である。
- (4) 排水処理工程では、主に雨水が工場内の設備・地表を流下し、排水路を経て最終的に集水ピットに貯められ、中和処理及び微量の異物・有害物のろ過・吸着分離後に放流される。集水ピット内には有害物を含有する沈降物が蓄積しているので、計画的に沈降物を取り出し特管産廃の汚泥として処理している。また、排水のろ過・吸着過程で定期的な交換するろ材も特管産廃の汚泥として処理している。
- (5) 数年毎に雨水保管タンク(1,500m<sup>3</sup>)清掃を行いタンク内沈降物として推積していた汚泥の取り出しを行う。判定基準を超えるものは特管産廃の汚泥として処理している。

## 2. 特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

## 1) 分別の現状と計画

- (1) 当社で発生する特管産廃は、種類と発生場所が限定されているので、分別・保管方法は確立している。
- (2) 既存設備内に一部微量に残留している有害物質があるため細めな分析チェックで分別を行い特管産廃が発生した場合、適正に処理・処分する予定である。
- (3) 汚泥についても、既存設備内の一部に微量に残留している有害物質を無くすことが課題である。確実に分別しているが、今後は設備更新と並行して、取り得る技術的対策を調査・検討していく。

## 3. 特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項

## 1) 委託処理・処分の現状と計画

- (1) 汚泥の処理・処分は、茨城県内外の許可業者に委託しており、許可証の有効期限も適宜確認して、更新時には新許可証のコピーを入手している。これは、委託収集運搬についても同様である。
- (2) この委託に伴うmanifestの発行・回収・保存管理は令和2年4月より電子manifestを導入し適正に実施している。
- (3) 個々の分別収集、保管、委託処理・処分が適切かつ確実に実行されるように、作業方法・管理方法の改善や教育を今後とも効果的に実施していく。

以上